

「東お多福山ススキ草原復元」活動報告

森脇肇子

早春の全面刈り作業

2019年5月15日(水) 9:00~14:30

作業項目：①特別保護区内（芦屋市域）の眺望点周辺のササ
全面刈りと眺望点Aから眺望点Bまでの登山道
脇の手刈り

：②植生調査 調査区 2-6の植物調査を実施

参加者：斧田、田島、井川、豊田、桐村、森脇(6名)

作業内容：参加者約40名で前回4月の活動分の続き（眺望点
付近の全面刈り）を行う。いつも作業前に、人と自然の博物館
橋本先生から作業説明があるが、今回はそれと並行して刈り払
機4台が既に稼働。眺望点B付近のネザサ刈りが開始されてい
作業でメインとなる大量のネザサの残骸破棄。今までは毎回刈
払い機を使わない30名以上が残骸待ちの状態だった。作業当

から問題視されていたと思う。それを解消する効率的な方法のようだ。私たちは橋本先生の説明後、午前中は眺望点AからBまでの登山道を挟んだ左右1.5メートル幅の手刈りを行うことになった。野イチゴやコアジサイの群生地やササユリの大きなつぼみなど、また新たな発見があり、作業時間が短く感じられた。午後からはいよいよメインの残骸集積作業だ。既に刈り払い機が刈り取った大量のネザサの残骸を集積場まで何度も運搬した。いつもより作業効率は明らかに上がっていたが、とともしんどかった。ちょうどヤマツツジの満開時期のようで、行く先々で美しい赤い花々が目に飛び込んでくる。集積場奥の人知れない陰にもたくさん咲いていて、捨てて行くたびに応援されているようだった。作業終了後に橋本先生から、「今日出会ったハイカーさんに『ここはお花が多く咲くので必ずコースに入れていつも楽しませて貰っています』という嬉しい言葉を頂きました」と聞いて、この活動の成果がハイカーたちの間でもう当たり前のように認識されているのかと随喜した。



B
の
い
た。
り
初

